

報恩講 (ほうおんこう) = 親鸞さまのご法事

おもな**莊嚴** (しょうごん) = おかざり

- 1, **花 (華)** 松 (常盤木) ⇒ 変わらないから
- 2, **お供え** 小餅 ⇒ (米)
- 3, **精進料理** お斎 (とき) ⇒ 正午にいただくから

【七品】

- ①ダイコン 雪の白さ
- ②ニンジン 親鸞さまの足から出た血の赤さ
- ③厚揚げ 袈裟 (けさ) = 黄袈裟を表す → 代用は平コンニャク
- ④カンピョウ お経 (たて糸) → ヒモ状に
- ⑤しいたけ 笠 (かさ) → 一番上にしいたけを置く
- ⑥ごぼう 杖 (つえ)
- ⑦こいも (里芋) 石枕

※⑦は北海道はとれない 代用品にジャガイモ

上記は、数百年来の浄土真宗独自の習慣 (ならわし) であり、
親鸞さまは、阿弥陀如来が真実の働きを「念仏一つ」によって私たちは救われ
るとご教示くださった。

そのことに対するよろこびを、後世の人たちがご恩に報いるために、たしなみ
(救いの条件ではない!) として精進料理を法事のときなどに用いてきた。

さらに親鸞さまのご一生におけるご苦勞を、食材を通してまで偲ぶということ
を今日まで行っている。